

第3次中海圏域定住自立圏共生ビジョン(概要版)

1. 定住自立圏構想の概要

地方圏から都市圏への人口流出を食い止めるとともに、地方圏への人の流れを創出することを目的とした自治体間の連携の取り組みで、平成21年4月にスタートしました。

中心市と周辺市町村が、自らの意思で1対1の協定を締結することを積み重ねる結果として定住自立圏を形成し、相互に役割分担しながら有機的に連携することで、「定住」のための暮らしに必要な諸機能を総体として確保するとともに、「自立」のための経済基盤や地域の誇りを培い、全体として魅力あふれる地域を形成していくことをめざしています。

2. 定住自立圏共生ビジョン

協定の締結により形成された定住自立圏全体を対象として、圏域の将来像や、推進する具体的な取組内容を示すものです。

(1) 圏域の名称・構成市町・ビジョンの期間

- 【名称】中海圏域定住自立圏
- 【構成市町】松江市・米子市・安来市・境港市
- 【期間】平成31～35年度(5年間)
※毎年度所要の見直しを行います。

(2) 圏域の概況

圏域人口 429,488人 (平成27年国勢調査)
圏域面積 1155.36km²

中海圏域の人口は、山陰両県の約3割を占めており、県境を越えた広域の生活圏を形成しています。中海や島根半島に代表される豊かな自然に恵まれ、交通の利便性が高いことから観光の分野でも注目されています。

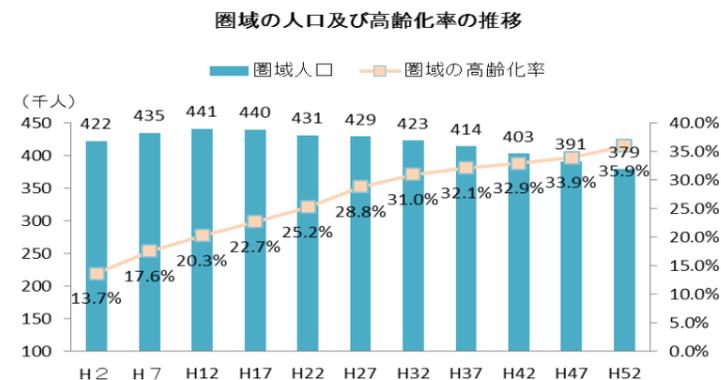
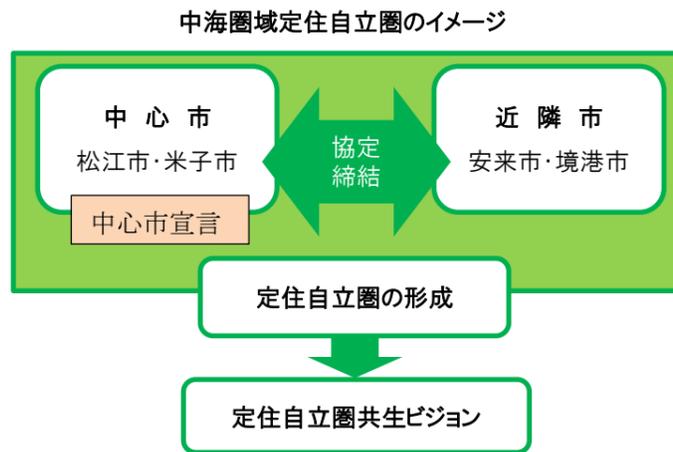
(3) 圏域の将来像

圏域の持つ優位性を最大限活用し、他の地域になり魅力・個性を発信・際立たせるための取り組みを進め、「人、物、情報が世界に向けて行きかい産業や暮らしに活気がみなぎり、かけがえのない自然を未来へ継承する中海圏域」を目指します。

さらに、本ビジョンでは、圏域振興・発展にむけた様々な取り組みを進めていくうえでのキャッチフレーズとして、この圏域の将来像を

「**出会いは なかうみ 動きだす 未来**」

と表現しています。



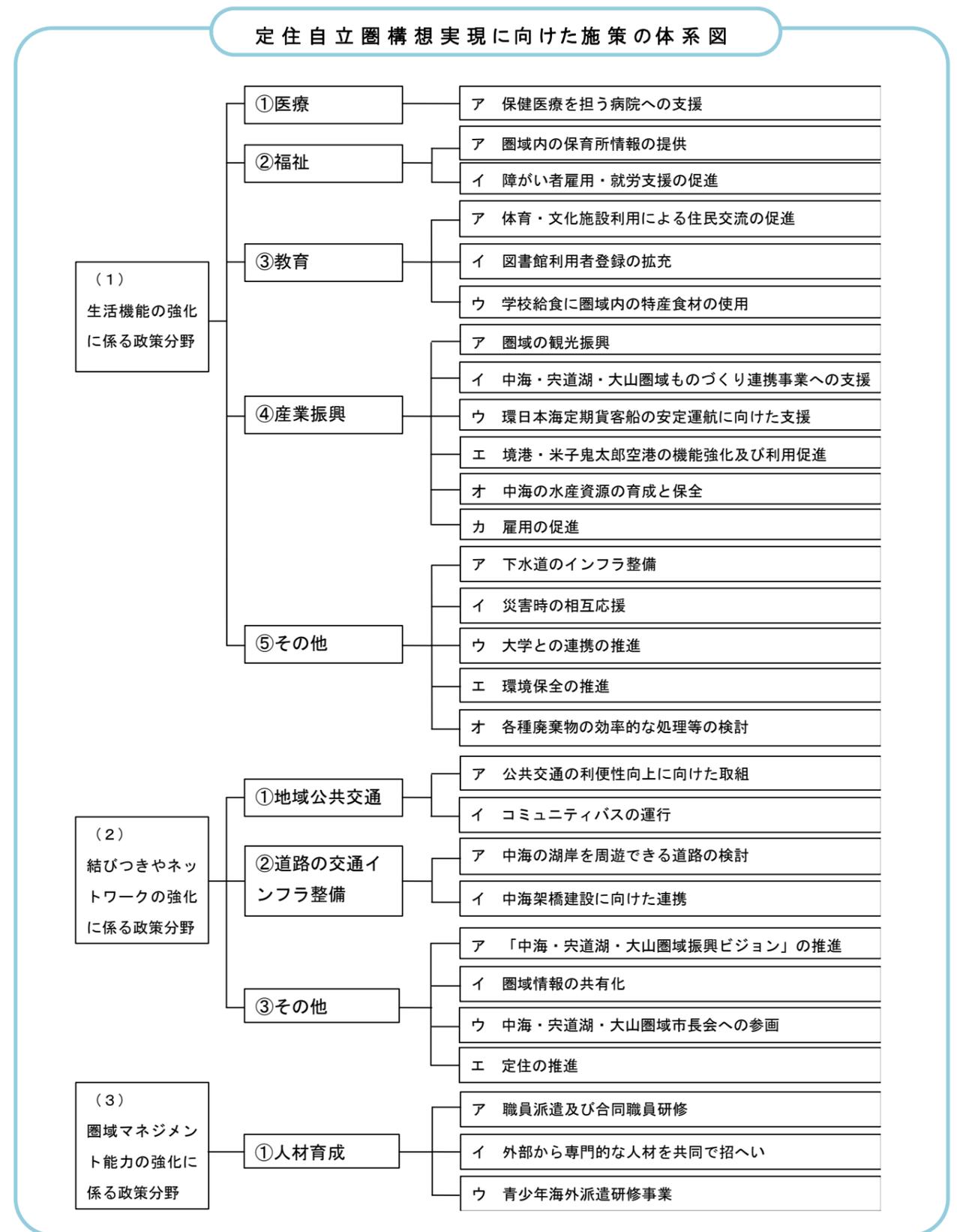
◇中長期的な将来の人口等の目標

圏域の人口と年齢3区分別人口割合	実績値		目標値	
	2010年 平成22年	2015年 平成27年	2025年 平成37年	2040年 平成52年
圏域の人口	433,979	429,488	412,601	391,107
年少人口(0~14歳)	13.8%	13.2%	13.4%	14.9%
生産年齢人口(15歳~64歳)	61.0%	58.0%	55.2%	52.1%
高齢人口(65歳以上)	25.2%	28.8%	31.4%	33.0%

※人口合計の2010年、2015年は国勢調査の数値により算出
※2025年、2040年は各市地方創生の人口ビジョンの目標人口より設定

(4) 推進する具体的な取組

協定に基づく具体的な取組は、「生活機能の強化」「結びつきやネットワークの強化」「圏域マネジメント能力の強化」の3つの視点に立ち、医療、福祉、産業振興、地域公共交通などの分野ごとに定め、推進します。



※項目ごとに成果指標(KPI)を設定し、進捗を管理します。

第3次中海定住自立圏共生ビジョン改訂箇所 全文P1～18 主な修正点

共生ビジョン項	修正箇所	修正等の内容
4	1.構成市の特徴 (1)松江市	松江市について、特例市、中核市に係る記述を追加。
	1.構成市の特徴 (4)境港市	境港市について、水木しげるロードの大規模改修の記述を追加
	1.構成市の特徴 (4)境港市	境港市について、香港便の就航について記述を追加。
5	2.中海圏域全体の特徴 (1)自然・環境	日本ジオパーク(島根半島・宍道湖中海ジオパーク)への認定についての記述を追加。
6～9	2.中海圏域全体の特徴 (3)～(6)	各種統計データをそれぞれ最新の状態に更新
9	2.中海圏域全体の特徴 (5)⑥観光	国宝松江城の記述を追加。
10	2.中海圏域全体の特徴 (5)⑦中海・宍道湖・大山圏域の産業	中海・宍道湖・大山圏域の産業に係る記述を追加。 出展 一社 中国経済連合会 中海・宍道湖・大山圏域経済の「見える化」分析
11	2.中海圏域全体の特徴 (6)交通ネットワーク及び生活情報	中国やまなみ街道(尾道松江線)の全線開通、香港便の就航に係る記述を追加。
12	3.中海圏域発展の方向性と将来像	<p>【表現の変更】</p> <p>○第3次共生ビジョン 全国的な人口減少社会の到来に対して、活力と魅力にあふれた地域社会を維持・創出していくためには、圏域住民が誇りを持って暮らせる魅力的な圏域の形成に向けた積極的な取組を進めていく必要があると考えます。様々な取組を推進していく上で、目指すべき圏域の将来像を行政機関等だけでなく圏域住民も共有することは非常に重要となります。 ここでは、これまでに述べた本圏域の現状や課題等を踏まえ、浮かび上がってくる圏域発展の「方向性」と発展を支える「基盤」を明らかにし、そのうえで、この圏域の将来像を示していきます。</p> <p>○第2次共生ビジョン ここでは、中海圏域の特性を、内部環境における「強み」、「弱み」、外部環境における「機会」、「脅威」に分類・整理する中で浮かび上がってくる圏域発展の「方向性」と発展を支える「基盤」を明らかにし、そのうえで、この圏域の将来像を示していきます。</p>
12	3.中海圏域発展の方向性と将来像	中海圏域外とのネットワークの図の変更。香港台北を追加。
13	(1)圏域発展を牽引する三つの方向性 ○ 北東アジアから世界へつながる西日本のゲートウェイの構築	香港国際空港を追記。
15	(2)圏域発展を支えるひとつの基盤 ○ 4市がつながり、あたかもひとつのように機能するまち	【文書の追加】 ハード・ソフトの両面から連携を強化することにより、圏域が「あたかもひとつのように機能するまち」となり、圏域の人口流出を防ぐダム機能をより高めていくことに繋がります。
16	(3)中海圏域の将来像	地方創生及び地方版総合戦略について記述を追加。
17	定住自立圏共生ビジョンの期間 定住自立圏形成協定に基づき推進する分野及び施策	定住自立圏共生ビジョンの期間を平成31年度から平成35年度の5年間に変更 政策分野の施策数を時点修正。
18	第6 定住自立圏形成協定に基づき推進する分野及び施策	【文書の追加】 なお、施策の推進にあたっては、各構成市及び構成市間で実現に向けた具体的な手法について検討を進めるとともに、既の実施しているものについても、より効果が高まる手法を検討する。

第3次中海定住自立圏共生ビジョン 事業名及び事業内容に係る新旧対照表

政策分野	協定項目		第3次共生ビジョン ※修正・追加事項は赤字で記載		第2次共生ビジョン	
			事業名	内容	事業名	内容
(1) 生活機能の強化に係る政策分野	福祉	障がい者雇用・就労支援の促進	事業名	・障がい者インターンシップ事業	事業名	・障がい者インターンシップ事業
			内容	・障がい者の職場実習、雇用先の確保に向け、企業と障がい者の双方にとっての、「知るきっかけ」、「雇うきっかけ」、「働くきっかけ」づくりで意識高揚を図る。 ・ 職場実習の実施企業へ奨励金を支給する。	内容	・障がい者の職場実習、雇用先の確保に向け、企業と障がい者の双方にとっての、「知るきっかけ」、「雇うきっかけ」、「働くきっかけ」づくりで意識高揚を図る。 ・ 職場実習（3・5・10日間）の実施企業へ奨励金を支給する。
	教育	体育・文化施設利用による住民交流の促進	事業名	・ 圏域住民のスポーツ・文化交流促進事業	事業名	・圏域内の体育・文化施設利便性向上事業
			内容	・市立の体育・文化施設について、市外料金区分を撤廃する。また、新たに 市立の体育・文化施設 を設置する場合においても、同様の料金区分を設けない。 ・ 圏域住民の文化・スポーツ等の交流を促進する事業を行い、当該事業等を実施する団体に対し、その事業費の一部を補助する。また市民大学等人材育成事業への委託を行う。 ・ その他関連事業を実施する。	内容	・市立の体育・文化施設について、市外料金区分を撤廃する。また、新たに施設を設置する場合においても、同様の料金区分を設けない。 ・ 圏域住民の文化・スポーツ等の交流を促進する事業等を実施する団体に対し、その事業費の一部を補助する。
	産業振興	圏域内の観光振興	事業名	・圏域情報発信及び観光振興事業	事業名	・圏域情報発信及び観光振興事業
			内容	・環日本海定期貨客船や米子ーソウル便、 米子ー香港便 でロシア・韓国・中国等から圏域に訪れる外国人への情報提供を行うため、共通の外国語対応のパンフレットの作製や 観光プロモーションを実施する。 ・ 外国人観光客のための環境整備（観光案内版及び翻訳機の配置等）を行い利便性の向上を図る。 ・ 中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構への参画及び山陰インバウンド機構等と連携により圏域の観光振興を図る。 ・ 城郭や社寺仏閣など圏域が持つ歴史・文化施設を活用した情報発信や周遊事業を実施する。 ・ 大山隠岐国立公園や島根半島・宍道湖中海ジオパークを合わせて新たな観光資源として情報発信する。 ・ 出雲空港を活用した圏域内への地域公共交通の利便性向上、圏域内を円滑に周遊できる方策を実施する。 ・ 出雲空港に就航するF D Aを利用して訪れる観光客に圏域を周遊してもらうための情報発信を行う。 ・ フォトフレーム等を活用し、圏域の観光施設やイベント等の情報提供を行う。 ・ 「ウンバクくん」や各市のキャラクターのノベルティグッズを作成する。 ・ 旅行会社とのタイアップによる圏域の観光商品を開発する。 ・ 水陸両用機を活用した圏域内の観光振興 ・ クルーズ客船乗客及びクルー向けの交流イベント（伝統芸能披露、日本文化体験 等）や観光案内を行う。 ・ その他関連事業を実施する。	内容	・環日本海定期貨客船や米子ーソウル便等でロシア・韓国・中国等から圏域に訪れる外国人への情報提供を行うため、共通の外国語対応のパンフレットを作製する。 ・ 外国語対応のパンフレット及び各市の観光パンフレットを置くため、パンフレットスタンドを設置する。 ・ 境港・米子鬼太郎空港に到着する外国人観光客に歓迎の意を表する観光案内版（外国語表記）を整備する。 ・ 観光案内所、公設の観光施設等に外国語の会話に対応した翻訳機を配置し、外国人観光客の利便性の向上を図る。 ・ 中海圏域の風景や祭りなどの画像を数秒ごとに切り替え表示するフォトフレームを設置し、圏域の観光施設やイベント等の情報提供を行う。 ・ ノベルティグッズ「ウンバクくん」・「ゲゲゲの女房」を作成する。 ・ 旅行会社とのタイアップによる圏域の観光商品を開発する。 ・ その他関連事業を実施する。
			事業名	・圏域企業の産業連携支援事業	事業名	・ものづくり広域連携事業 ・中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業に対する補助金 ・中海圏域連携産業振興事業
	内容	・圏域の企業や商工団体等で構成される当該事業の実行委員として運営に参加するとともに、同事業の実行委員会と連携し、必要な支援を行う。 ・ 国内外でビジネスマッチング（商談会・名刺交換会）を開催することで、販路拡大、共同開発、技術支援、業務提携などの促進につなげ、圏域経済の活性化を図る。 ・ 圏域内企業間での産業連携や域外企業との新たな事業連携を促進するため、「圏域ものづくりnet」の掲載企業情報を質・量ともに充実させ、圏域内外企業へ向けた情報発信をさらに強化する。 ・ 当該事業を円滑に推進するため、中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業実行委員会事務局に職員派遣をしている松江商工会議所へ負担金を交付する。	内容	・圏域の企業や商工団体等で構成される当該事業の実行委員として運営に参加するとともに、同事業の実行委員会と連携し、必要な支援を行う。		
	環日本海定期貨客船の安定運航にむけた支援	環日本海定期貨客船の安定運航にむけた支援	事業名	・環日本海定期貨客船支援事業	事業名	・環日本海定期貨客船支援事業
内容			・環日本海定期貨客船の安定運航に向け、 費用の助成を行う 民間団体を支援する。 ・ 圏域内の商工団体等と連携し、当該定期貨客船の利用促進に向けた周知を図る	内容	・環日本海定期貨客船の安定運航に向け、 初期経費を助成する 民間団体を支援する。 ・ 圏域内の商工団体等と連携し、当該定期貨客船の利用促進に向けた周知を図る。	

第3次中海定住自立圏共生ビジョン 事業名及び事業内容に係る新旧対照表

政策分野	協定項目	第3次共生ビジョン ※修正・追加事項は赤字で記載		第2次共生ビジョン	
(1) 生活機能の強化に係る政策分野	産業振興 境港・米子鬼太郎空港の機能強化及び利用促進	事業名	・境港・米子鬼太郎空港の機能強化及び利用促進事業	事業名	<ul style="list-style-type: none"> ロシアビジネスサポートセンター支援事業 米子ー東京便を利用したツアー造成事業 海外商談会支援事業 チャーター便による圏域交流事業 北東アジア交流促進事業 境港の貨客船ターミナル整備事業 国内RORO船の定期航路化事業
		内容	<ul style="list-style-type: none"> 境港の利用促進に向け、圏域内の企業の貿易拡大に向け高取県版「ロシア中小企業・人的交流分野における協力プラットフォーム」への参画、海外商談会等への支援を行う。 圏域の商工会議所や自治体で構成される「米子空港利用促進懇話会」に参加し、同懇話会の実施する空港利用促進事業に対し必要な支援を行うとともに、連携してツアー造成等の事業を行う。 国際定期便利用促進協議会等と協力して実施する米子ーソウル便、米子ー香港便の利用促進事業のほか、必要な事業を実施する。 環日本海定期貨客船を利用し、北東アジア地域との民間交流を行う団体に対して、事業費の一部を補助する。 竹内南地区を圏域の海からの玄関口と位置づけ、国内外のクルーズ客船等に対応できる貨客船ターミナル整備について、早期事業化に向けた要望活動を行う。 境港の利用促進として、北海道、北陸及び関東との物流促進及び効率化を目的とし、国内RORO船の定期航路の就航に向けた試験運航等への協力を行う。 	内容	<ul style="list-style-type: none"> 境港の利用促進に向け、圏域内の企業の貿易拡大に向けたロシアビジネスサポートセンターへの支援、海外商談会等への支援を行う。 米子鬼太郎空港の利用促進に向け、米子空港利用促進懇話会と連携しツアー造成等の必要な事業を行う。 環日本海定期貨客船を利用し、北東アジア地域との民間交流を行う団体に対して、事業費の一部を補助する。 圏域の商工会議所や自治体で構成される「米子空港利用促進懇話会」に参加し、同会の実施する空港利用促進事業に対し必要な支援を行う。 竹内南地区を圏域の海からの玄関口と位置づけ、国内外のクルーズ客船等に対応できる貨客船ターミナル整備について、早期事業化に向けた要望活動を行う。 境港の利用促進として、北海道、北陸及び関東との物流促進及び効率化を目的とし、国内RORO船の定期航路の就航に向けた試験運航等への協力を行う。
		事業名	・中海漁業資源維持再生事業	事業名	・中海漁業資源維持再生事業
			内容	・中海の水産資源を永続的に維持していくため、 種苗放流と資源調査等を行う。	内容
		事業名		・圏域内企業魅力発信事業	事業名
			内容	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内企業の魅力や取組、働く人、地域の魅力をインターネットサイトで掲載し圏域内企業の魅力を発信するなど圏域内就職に向け必要な支援を行う。 ふるさと融資の活用を通して民間事業者の取組を支援する。 	内容
	その他	事業名		・汚水処理の事務委託	事業名
			内容	<ul style="list-style-type: none"> 境港市と米子市の公共下水道の汚水処理事務の委託に関する規約を締結し、事業を実施する。 米子市と安来市の公共下水道の汚水処理事務の委託に関する規約を締結し、事業を実施する。 	内容
		事業名		下水道のインフラ整備(1)に統合	事業名
			内容	下水等のインフラ整備(1)に統合	内容
		事業名	・災害時相互応援体制整備事業	事業名	・災害時相互応援体制整備事業
			内容	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の4市で防災連絡協議会を設置・運営し、大規模災害時の相互応援体制についての強化を図る。 圏域内の4市で連携して、震災等の大規模災害を想定した実務的な図上訓練に参加する。 災害時に相互で支援する物資や資機材を確認するとともに、必要な資機材を共同で購入し、備蓄する。 	内容

第3次中海定住自立圏共生ビジョン 事業名及び事業内容に係る新旧対照表

政策分野	協定項目		第3次共生ビジョン ※修正・追加事項は赤字で記載		第2次共生ビジョン	
			事業名	内容	事業名	内容
(1) 生活機能の強化に係る政策分野	その他	大学との連携の推進	<p>・大学等との連携推進事業</p> <p>・圏域内の高等教育機関である「島根大学」、「鳥取大学医学部」等との連携を推進する。</p> <p>・松江市は、「島根大学」、「鳥取大学医学部」等と連携している「松江立病院」への医師派遣等の事業を推進する。</p> <p>・米子市は、鳥取大学医学部と連携して、認知症予防教室、鳥取バイオフロンティア等の事業を推進する。</p> <p>・米子市は国立米子工業専門学校と連携し、中海の水質調査を行う。</p> <p>・安来市は、島根大学と連携して、たたら研究事業を推進する。鳥取大学医学部付風病院の臨床研修協力病院として、地域医療の連携を推進する。</p> <p>・安来市は、高等学校を対象とした、専門学校への進学説明会の開催について、必要な支援を行う。</p> <p>・境港市は、鳥取大学医学部と連携して「赤ちゃん登校日」等の事業を実施するとともに「鳥取県済生会境港総合病院」への医師派遣を推進する。</p> <p>・その他、圏域内高等機関との連携を推進する事業を実施する。</p> <p>※関係市の役割分担を事業内容転記した。</p>	<p>・大学等との連携推進事業</p> <p>・圏域内の高等教育機関である「島根大学」、「鳥取大学医学部」等との連携を推進する。</p> <p>・圏域内への定住につながる専修学校への進学を促進するため、高等学校を対象とした進学説明会を開催するとともに、専任のコーディネーターを配置する。</p>		
		環境保全の推進	<p>・圏域の環境保全推進事業</p> <p>・自然環境の保全事業を圏域が一体となって進めるために、圏域内の自治体がどのように連携、役割分担を図るべきかについて、ワーキンググループで検討を進める。</p> <p>・圏域内の自治体は、関係機関と協力し、中海沿岸の一斉清掃等、住民参加型の取組を拡充する。</p> <p>・中海の湖面利用の取組として「なかうみ自然体験学習事業」「ジュニアヨット全国大会」「中海・宍道湖レガッタ」の開催支援を行う。</p> <p>・「環境と調和した社会の構築」を目指し、電気自動車及び充電設備の維持管理を行う。</p> <p>・米子市は中海の一部としてラムサール条約に登録された湿地を含む米子水鳥公園を運営する。</p> <p>・生活環境を支える重要な生態系と、中海の環境を幅広く保全・再生していくため湿地等の保全に関する取組を実施する。</p>	<p>・圏域の環境保全推進事業</p> <p>・自然環境の保全事業を圏域が一体となって進めるために、圏域内の自治体がどのように連携、役割分担を図るべきかについて、ワーキンググループで検討を進める。</p> <p>・圏域内の自治体は、関係機関と協力し、中海沿岸の一斉清掃等、住民参加型の取組を拡充する。</p> <p>・中海の湖面利用の取組として「なかうみ自然体験学習事業」「ジュニアヨット全国大会」の開催支援を行う。</p> <p>・「環境と調和した社会の構築」を目指し、電気自動車及び充電設備の整備を行うとともに、電気自動車の官民共同利用事業を実施する。</p>		
(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	地域公共交通	公共交通の利便性向上に向けた取組	<p>・公共交通の利便性向上事業</p> <p>・公共交通機関の非接触型ICカードシステムの導入について調査研究を行う。</p> <p>・山陰新幹線、中国横断新幹線（伯備新幹線）の整備促進に向けた取組を実施する。</p>	<p>・公共交通の利便性向上事業</p> <p>・圏域内の公共交通現況調査を実施し、公共交通マップを作成するとともに、各市間の公共交通の課題を抽出し、改善策を作成する。</p> <p>・公共交通機関の非接触型ICカードシステムの導入について調査研究を行う。</p>		
		コミュニティバスの運行(1)	<p>・圏域をつなぐコミュニティバスの運行事業</p> <p>・松江市美保関町から境港市のJR境港駅、鳥取県済生会境港総合病院を結ぶコミュニティバスを運行する。</p> <p>・松江市八束町から境港市のJR境港駅、鳥取県済生会境港総合病院を結ぶコミュニティバスを運行する。</p> <p>・安来市の広瀬、伯太から米子市のJR米子駅を結ぶコミュニティバスを運行する</p>	<p>・(美保関)コミュニティバス運行事業</p> <p>・境水道渡船代替バス運行支援事業</p> <p>・松江市美保関町から境港市のJR境港駅、鳥取県済生会境港総合病院を結ぶコミュニティバスを運行する。</p>		
		コミュニティバスの運行(2)	<p>・コミュニティバスの運行(1)に統合</p> <p>・コミュニティバスの運行(1)に統合</p>	<p>・(八束)コミュニティバス運行事業</p> <p>・松江市八束町から境港市のJR境港駅、鳥取県済生会境港総合病院を結ぶコミュニティバスを運行する。</p>		
		コミュニティバスの運行(3)	<p>・コミュニティバスの運行(1)に統合</p> <p>・コミュニティバスの運行(1)に統合</p>	<p>・広域生活バス運行事業</p> <p>・安来市の広瀬、伯太(福富)から米子市のJR米子駅を結ぶコミュニティバスを運行する。</p>		
		コミュニティバスの運行(4)	<p>・コミュニティバスの運行(1)に統合</p> <p>・コミュニティバスの運行(1)に統合</p>	<p>・東出雲コミュニティバス運行事業</p> <p>・旧東出雲町のJR揖屋駅から松江市八雲町の八雲ゆうあい館を結ぶコミュニティバスを運行する。</p>		
			<p>・コミュニティバスの運行(1)に統合</p>			
			<p>・コミュニティバスの運行(1)に統合</p>			
			<p>・コミュニティバスの運行(1)に統合</p>			

第3次中海定住自立圏共生ビジョン 事業名及び事業内容に係る新旧対照表

政策分野	協定項目		第3次共生ビジョン ※修正・追加事項は赤字で記載		第2次共生ビジョン		
			事業名	内容	事業名	内容	
(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	道路の交通インフラ整備	中海の湖岸を周遊できる道路の検討	中海の湖岸を周遊できる道路の検討事業	・ワーキンググループを設置し、中海の湖岸を周遊できる道路のネットワーク構築に向けた取組を進める。 ・具体的な周遊道路のルート及び整備計画の検討。 ・当該ルート部分の事業化を検討、周遊道路のPR。 ・サイクリングロードを含めた、周遊ルートマップの作製及び環境整備。 ・中海・穴道湖を周遊できる8字ルート（米子自動車4車線化、境港出雲道路など）の整備促進に向けた取組の実施。	中海の湖岸を周遊できる道路の検討事業	・ワーキンググループを設置し、中海の湖岸を周遊できる道路のネットワーク構築に向けた取組を進める。 ・圏域内が一体となった管内図及び都市計画図の作製。 ・具体的な周遊道路のルート及び整備計画の検討。 ・当該ルート部分の事業化を検討、周遊道路のPR。 ・周遊ルートマップの作製。	
		中海架橋建設に向けた連携	中海架橋建設に向けた連携事業	・「中海架橋建設米子市・安来市連絡会」を設置し、「中海架橋建設連絡協議会」再開の必要性を整理し、早期再開について要望を行う。	中海架橋建設に向けた連携事業	・「中海架橋建設米子市・安来市連絡会」を設置し、「中海架橋建設連絡協議会」再開の必要性を整理し、早期再開について要望を行う。	
	「中海・穴道湖・大山圏域振興ビジョン」の推進	「中海・穴道湖・大山圏域振興ビジョン」の推進	「中海・穴道湖・大山圏域振興ビジョン」推進事業	・「中海・穴道湖・大山圏域振興ビジョン」に基づき、連携して地方版総合戦略の事業に取組むとともに、圏域自治体や圏域内外で活動する各種団体等と共同事業を実施し、地域の連携強化を図る。 ・民間放送と連携し圏域内への情報発信により圏域の連携強化に取組む。	「中海・穴道湖・大山圏域振興ビジョン」推進事業	・「中海・穴道湖・大山圏域振興ビジョン」に基づき、圏域自治体や圏域内外で活動する各種団体等と共同事業を実施し、地域の連携強化を図る。	
		圏域情報の共有化	・圏域情報共有化事業	・圏域内にあるケーブルテレビ事業者「山陰ケーブルビジョン」と「中海テレビ放送」の番組を相互に放送する等の調整を図る。 ・テレビなどのメディアを使って、市政、観光情報を圏域住民に広く提供する。	・市議会同時中継経費 ・テレビ広報経費 ・防災対策関連機器維持管理費	・圏域内にあるケーブルテレビ事業者「山陰ケーブルビジョン」と「中海テレビ放送」の番組を相互に放送する等の調整を図る。 ・テレビなどのメディアを使って、市政、観光情報を圏域住民に広く提供する。	
	その他	中海・穴道湖・大山圏域市長会への参画	・中海・穴道湖・大山圏域市長会事業	・県境や自治体の区域を越えた一体性や連帯感の醸成を促すための各種事業を実施する。 ・中海・穴道湖・大山圏域市長会の運営のため事務局を設置し4市から職員を派遣する。 ・地方版総合戦略に基づき、地方創生の実現に向けた連携事業を実施する。 【地方版総合戦略に掲げる施策】 北東アジアに向けたゲートウェイ機能のさらなる活用 圏域企業の海外進出支援のための官民挙げた「インド」進出インバウンド観光の推進 地域資源の発掘 圏域への移住・定住の促進 5市を2つの湖を介して結ぶ「8の字ルート」の早期完成 自然環境の保全と活用 「公共交通の利便性向上」「人材育成の共同化」「公共施設の共同利用」の推進	・中海・穴道湖・大山圏域市長会事業	・県境や自治体の区域を越えた一体性や連帯感の醸成を促すための各種事業を実施する。 ・中海・穴道湖・大山圏域市長会の取組を住民の方々に伝えるため、「中海・穴道湖・大山圏域市長会シンポジウム」を開催する。 ・中海・穴道湖・大山圏域市長会の運営のため事務局を設置し、松江市及び米子市から職員を派遣する。	
		定住の推進	・出会いの場づくり事業	・人口減少（少子化）の要因の一つである未婚化・晩婚化に対応する具体的な施策として男女の出会いの場となる婚活イベント「UN-PAKU meeting」を実施する。	・出会いの場づくり事業 ・婚活支援事業 ・婚活サポート事業	・独身男女の出会いのきっかけづくりとして、圏域内において出会い創出イベントを実施する団体への支援を行う。	
	(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	人材育成	職員派遣及び合同職員研修	・職員派遣及び合同職員研修事業	・職員派遣計画を策定するとともに、当該計画に基づき職員を派遣する。 ・環境、地域振興等の研修共通のテーマについて、合同職員研修を実施する。	・職員派遣及び合同職員研修事業	・職員派遣計画を策定するとともに、当該計画に基づき職員を派遣する。 ・環境、地域振興等の研修共通のテーマについて、合同職員研修を実施する。
			外部から専門的な人材を共同で招へい	・外部からの人材招へい事業	・定住自立圏の取組に関する継続的なアドバイザーや、定住自立圏形成協定の項目内容に沿った専門分野の講師を招へいする。 ・中海・穴道湖・大山圏域市長会の事務局長に外部人材を招へいする。	・外部からの人材招へい事業	・定住自立圏の取組に関する継続的なアドバイザーや、定住自立圏形成協定の項目内容に沿った専門分野の講師を招へいする。 ・ロシア貿易の専門アドバイザーを招へいする。

第3次中海定住自立圏共生ビジョン KPI 設定案

政策分野	協定項目		成果指標	第2次共生ビジョン		第3次共生ビジョン		備考(出典等)
				現状値	目標値	現状値	目標値	
				H27	H30	H29	H35	
(1)生活機能の強化に係る政策分野	福祉	障がい者雇用・就労支援の促進	短期職場実習の利用者数	22人	40人	28人	37人	構成市
	教育	体育・文化施設利用による住民交流の促進	中海・宍道湖・大山圏域市長会が支援するスポーツ・文化交流事業の回数	—	—	4件	4件	中海・宍道湖・大山圏域市長会
	産業振興	圏域内の観光振興	観光入込客数	1,441万人	1,828万人	1,439万人	2,034万人	各県観光動態調査等
			外国人宿泊客数(中海・宍道湖・大山圏域)	85,235人	100,000人	117,397人	123,000人	各県観光動態調査等
		中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業への支援	中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業実行委員会が行うビジネスマッチング商談件数	528件	1,440件(H27~H30累計)	2,250件(H25~H29累計)	2,500件(H31~H35累計)	中海・宍道湖・大山圏域市長会
		環日本海定期貨客船の安定運航にむけた支援	DBSクルーズフェリーの乗客数	2,77万人	2,95万人	3,37万人	3万人以上の維持	境港管理組合 鳥取県HP
		境港・米子鬼太郎空港の機能強化及び利用促進	国内線利用者数	54.9万人	58.7万人	58.0万人	60万人	鳥取県HP
			国際線利用者数 ソウル便・香港便・チャーター便	3.99万人	4.70万人	7.76万人	9.5万人以上	鳥取県HP
			クルーズ客船寄港年間観光客数	1.94万人	4.30万人	6.65万人	7万人	境港管理組合
	中海の水産資源の育成と保全	中海での漁獲量の維持等	105t	109t	108t	110t	構成市	
	雇用の促進	「S-ct(エスクト)」掲載企業数	—	—	0	200社	構成市	
	その他	下水道のインフラ整備	下水道共同処理体制の維持	—	—	2地区	2地区	構成市
		災害時の相互応援	(中海・宍道湖・大山圏域市長会で実施する)合同訓練の実施回数	0回	1回(延べ回数)	1回(5年間の延べ件数)	2回(5年間の延べ件数)	中海・宍道湖・大山圏域市長会
		大学との連携の推進	中海・宍道湖・大山圏域市長会と高等教育機関との包括連携協定の締結件数(累計)	0件	2件	1件	2件	中海・宍道湖・大山圏域市長会
環境保全の推進		中海一斉清掃の参加者数	3,201人	3,300人	2,985人	3,300人	鳥取県HP等	
(2)結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	地域公共交通	公共交通の利便性向上に向けた取組	中国横断新幹線(伯備新幹線)にかかる国に対する要望活動の実施回数	—	—	0回	2回	構成市、中海・宍道湖・大山圏域市長会
		コミュニティバスの運行	行政区域をまたいだコミュニティバス路線の確保	3路線	3路線	3路線	3路線	構成市
	道路の交通インフラ整備	中海の湖岸を周遊できる道路の検討	米子自動車4車線化にかかる国に対する要望活動の実施回数	—	—	2回	2回	構成市、中海・宍道湖・大山圏域市長会
		中海架橋建設に向けた連携	鳥取県・鳥取県に対する要望活動の実施回数	—	—	2回	2回	構成市、中海・宍道湖・大山圏域市長会
	その他	「中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン」の推進	中海・宍道湖・大山圏域の人口維持	654,207人	654,000人	649,950人	60万人の維持	H27は国勢調査 H29は各県統計情報
		圏域情報の共有化	市議会中継番組の本数	—	—	4本	4本	構成市
		中海・宍道湖・大山圏域市長会への参画	中海・宍道湖・大山圏域の人口維持	654,207人	654,000人	649,950人	60万人の維持	H27は国勢調査 H29は各県統計情報
定住の推進		圏域内への移住者数	1,258人	2,700人以上(H28~H30累計)	2,156人	毎年2,000人以上	鳥取県・鳥取県HP ※H28よりカウント方法変更 鳥取県	
(3)圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野	人材育成	職員派遣及び合同職員研修	中海・宍道湖・大山圏域市長会が実施する合同研修会への平均参加人数(4市合計)	10人	30人(H28~H30累計)	20人	20人	中海・宍道湖・大山圏域市長会
		外部から専門的な人材を共同で招へい	外部人材の共同招へい人数	—	—	1人	1人	中海・宍道湖・大山圏域市長会